



2022-2023 年度 国際ロータリー第 2730 地区 宮崎県中部グループ

宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 99 回 例会 2022 年 11 月 8 日

●例会場 宮崎大学附属図書館 3 階 「hidamari」
会長 薬王寺文宏 副会長 成合 修 幹事 安田文彦

■会長の時間 薬王寺文宏 会長



次回 11 月 22 日(火)の例会は 100 回目というメモリアルな例会となります。この第 100 回例会の卓話は福岡南 RC 所属 私立 立花高校校長の齋藤 真人氏にご依頼しています。例会も目前でございますので、齋藤氏の紹介を少しだけさせていただきます。

齋藤 真人氏

1967 年宮崎県生まれ。宮崎県の公立中学校の音楽教員を経て、2004 年に教頭として立花高等学校に着任。2006 年から校長を務める。不登校生徒自立支援の教育方針のもと、『心の癒し』重点を置いた立花高校の教育実践が大きく注目を集めるに従い、心の拠り所を求め子どもや親たちから支持されている。現在、自治体や教育関係者からの講演依頼に応え『いいんだよ』の共感的理解の大切さを精力的に説いて回っている。講演活動は年間 100 本以上。座右の銘は「共にいる」。著書に『『いいんだよ』は魔法の言葉ー君は君のままでいいー』（梓書院）

今回は『寛容の精神が醸成される社会へ ～ロータリアンにできること～』というテーマで卓話いただくことになっています。是非、11 月 22 日はホテルきよたけにお越しください。

さて、メモリアルといいますがもう 1 件ございまして、来る 11 月 13 日(日)に我が母校 宮崎小学校が創立 150 周年を迎えます。1872 年学制発布により、この近隣でいうと宮崎市には現 宮崎小学校、旧大淀村には現 古城小学校が設立されたようです。宮崎小学校は、1872 年 現宮崎八幡宮境内 杉田千蔭私塾に「上別府小学校」、徳善寺内に「上野町小学校」を開設したのが起源となり、後々それが合併して現在の宮崎小学校となっています。私が在籍したのは創立 103 年～108 年で、当時は 1,000 人弱の児童が在籍していましたが、現在では 400 名弱と当時と比べるとかなり少なくなっています。商業地も住宅地も分散していったからではないでしょうか。縁あってこの創立 150 年事業の実行委員長を務めています。そういう立場なので色々学校の歴史を紐解いていると、ちょっとした困りごとが出てきました。宮崎小学校には校歌があります。その他に副校歌といえますか『宮小よいこの歌』というのがありまして、私たちの在籍時にはこのよい子の歌を色々な行事で歌っていました…というか、これしか歌っていなかったので私たちはこれが校歌だと思っていました。ですから、私たちは宮崎小学校の校歌を知りません…私の調査によりますと、少なくとも上下 10 歳は『宮小よいこの歌』を校歌だと思っています。うちは親子 3 代宮崎小学校の卒業生ですが、私(兄弟)だけ校歌を知らない…。なぜこのようなことが起こったのか…これを調べようと思い探偵ナイトスクープに調査依頼しようと思いました。しかし、全国ネットのテレビに出ないといけなくなったらちょっと恥ずかしいので、MRT のわけもん GT 内の“武坊探偵団”というコーナーに調査依頼しています。そのうちテレビで取り上げられることもあると思いますので、その時は是非見てくださいね!!

■幹事報告 安田文彦 幹事



みなさん、こんにちは。

本日の幹事報告は 5 点ございます。

- 1 地区大会記念誌送付のお知らせ
2021-2022 年度地区大会記念誌が届いております。ご覧になりたい方は、事務局までご連絡をお願いいたします。
- 2 地区補助金申請期限のお知らせ

2023～2024年度に実施する地区補助金の申請が12月末日締め切りとなっております。ご検討の方は速やかに申請書の提出をお願いいたします。

3 連絡席変更のお知らせ

鹿児島西ロータリークラブの連絡先変更のお知らせが来ておりますので、ご報告いたします。

4 国際ロータリー為替レートについて

2022年11月のロータリーレートは、1ドル=148円です。日本事務局に着金した月のRIレートが適用されます。月末にお振込みされる方はご注意ください。よろしくお願いいたします。

5 寄附について

2022年10月25日の寄付についてご報告いたします。ロータリー財団が1,850円、米山奨学金が975円でした。引き続きよろしくご報告いたします。

■各会員からの報告



クラブ管理委員会より

出席担当 瀧伸一 委員

第99回例会出席について、次の通り報告いたします。

- ・開催日：2022年11月8日火曜日
- ・会員数：37名
- ・ホーム出席：20名
- ・オンライン出席：3名
- ・出席者合計：23名（暫定出席率62.16%）



奉仕プロジェクト委員会 勢井由美子 委員長

地区大会の事前のご報告として。

11月13日地区大会3日目の第二本会議の頭で

RLI模擬講座があり、勢井由美子もその生徒の一人として登壇することになりました。話の途中は割愛しますが、我がクラブには、水居直前会長がRLIのDL→指導者がおられますので

クラブ内でRLIの勉強会を実施してくださいと中村靖治様に言われましたのでそれを皆さんの前でお伝えしました。

■卓話 水居直前会長 カラオケ小話



趣味はと聞かれたら、旅行、海外ドラマ鑑賞と言っています。

旅行は石垣島にはまっていますが、海外ドラマは、最近は韓国ドラマをずっと見ています。隠しているわけではないのですが、実はカラオケも大好きです。一部の会員はそのことをよくご存じだと思います。カラオケは宮崎の文化遺産ではないかと個人的に思っているニシタチのスナックで歌います。さて、本日は、カラオケについて考えてみました。

【カラオケの語源】

私の友人の話です。彼は現在70代後半ですが、司会者という職業でして、宮尾すすむに師事し、主に民謡歌手の司会者として活躍された方です。一般有名なのは金沢明子で、司会者として全国ツアーに同行したそうです。彼は一時期、浅草でスナックをしていたそうで、その時に第一興商の創業者がリヤカーに8トラックカセットのカラオケ機器を載せて、営業をしていて、それを購入したとのこと。珍しさもあって、たくさんの客が来るようになったのだそうですが、親交のあった作曲家の遠藤実氏が常連だったそうです。ある日、遠藤実氏がグループで来たそうですが、たまたまカラオケが故障していたらしく、遠藤氏が付き人の千昌夫に、お前、うちからカラオケ持って来いと指示したそうです。千昌夫は自宅のふる場から桶を持ってきたそうで、空の桶でカラオケで大笑いになったというエピソードを聞かされました。私はネタだろうと思っています。さて、調べてみると、面白い話がありました。1956年に宝塚歌劇団の楽団員がストライキに入り、劇団側から松下電器が依頼されて、演奏テープと機器

を提供して公演をおこなったそうです。劇場のオーケストラが入るボックスが空になったので、カラのオーケストラボックスでカラオケ、カラオケということだそうです。1956年の松下電器社内報に記事があります。一方で放送業界ではカラオケ、生オケという言葉はあったようで、NHK交響楽団員が使っていた言葉との話もあります。歌手が自分の歌の伴奏用にテープを局に持ち込むことがあり、これをカラオケテープと呼んでいたとも言われます。ラジオ放送で歌手の歌のないオーケストラ演奏だけのものをMMO「ミュージック・マイナス・ワン」と言っていたそうです。ちなみに1951年放送開始の「歌のない歌謡曲」という番組は文字通りMMOの曲を流しています。

【カラオケの市場規模】

「カラオケ白書2020」によればカラオケ業界の市場規模は、酒場（スナックなど）市場が約1513億円、カラオケボックス約3798億円、その他観光バス・宴会場・福祉施設で約456億円、業務用市場としての合計は約5765億円。加えてソフトメーカーの売上700億円、コンテンツ配信2727億円、これらにスマホやカーナビ、ネットテレビでのカラオケ利用料などを合計すると、カラオケ関連全体で1兆円近い規模と推測できるのだそうです。

(2019年)

【カラオケは誰が？】

このカラオケは誰が発明したのか。松下電器（現パナソニック）出身のジャーナリスト、前川洋一郎氏によれば、「カラオケの発明者は誰か一人に特定はできない。カラオケはハード、ソフト、システム、サービスに関して個々に発明・発案者がいるが、その中の誰かがカラオケのシステム全体を創造したわけではないからだ。その代わりに、1965年から75年に至る「カラオケ黎明期」に開発に貢献した12人の「カラオケベンチャー」を選り出すことはできる。」

具体的には以下の方達です。

根岸重一	8トラックカーステレオにマイク・ミキシング機能を付けた
浜崎巖	歌入りテープでプロとデュエットを楽しむジューク（ボックス）を作った
別宮浩	バスの中で楽しめるカラオケ専用機を発売
山下年春	歌手育成用に8トラック録音再生デッキを作った
井上大佑	エコー、ミキシング、コイントイマー、伴奏用テープをセットにしてレンタルした
高城喜三郎	スナックの女性従業員の人出不足対策にカラオケジュークを発売
夏秋勇三	1曲ごとに頭出しできるソフトテープを開発
遠藤実	ミノルフォン（レコード会社。レコードに通常の楽曲と共にカラオケ曲も収録した）を設立した作曲家
飛矢久良	カラオケテープを量産販売
尾崎三徳	カラオケレコード・テープの先駆販売でテイチクをカラオケで日本一に 「石原裕次郎、八代亜紀ヒットメロディー」
毛塚昇之	全国カラオケ事業者協会を設立
保志忠彦	第一興商の創業者

【カラオケ機械の誕生と発展】

彼らのアイデアやその具現化のための開発などを見るととても面白いものがあります。一般社団法人全国カラオケ事業者協会の「歴史年表解説」には次のように紹介されています。「1970年代の初頭には、それまで主に軽音楽のBGM再生機として使われていたコインボックス内蔵の8トラック式小型ジュークボックスにマイク端子が付く。そして根岸重一氏（日電工業）らが軽音楽テープ等を使って歌唱するサービスを小型ジュークボックスに追加提案するなど、カラオケの前身的な利用方法が登場した。軽音楽テープが「聴くこと」を目的としているとすれば、カラオケテープは「歌うこと」を目的に作られる。厳密に言えば、プロ歌手ではなく、素人に歌いやすくアレンジされていなければならない。仮にこうした定義に基づくと、国民皆唱運動を展開した山下年春氏（太平洋レコード創業者）が'70年に発売した伴奏テープ（8トラック式）は、初のカラオケソフトと言える。その翌年、井上大佑氏（クレセント創業者）がスプリングエコー、コイントイマー内蔵のマイク端子付き8トラックプレーヤーを手作りで製作。弾き語り録音した伴奏テープ10巻（40曲）をセットして店舗へレンタル提供した。店舗での使用料金は1曲5分間100円だったが、神戸市（兵庫県）の酔客の人気を博し評判となる。カラオケが業務用として誕生し、普及していったことを考えれば、カラオケ事業の始まりは'71年だと言える。こうして誕生したカラオケは、'73年には早くもビジネスとして各地で注目を集める。ハード、ソフトメーカーが相次いで登場してレンタルを開始。酒場など、社交場を中心に急速に普及していった。'76年にはテイチクが豊富なライブラリーを背景にカラオケテープを販売。家電・音楽業界からはクラリオンと日本ビクターが参入している。」ちなみに根岸重一氏のミュージックボックスは歌のない歌謡曲の音源を使用したそうです。

【カラオケの進化～第二世代？】

カラオケは途中から映像と結びつきます。レーザーディスクで映像に歌詞が表示され、しかもメロディに合わせて歌詞の文字色が変わるというガイド機能までつきます。私のカラオケ人生もこのころからです。通信カラオケが普及するまでは、このレーザーディスクカラオケが主流でした。ビクターがVHDというビデオディスクで対抗、VHS、ベータ戦争の影響もあって、多くのメーカーはVHDを担ぎましたが、VHDは普及しませんでした。余談ですが、このLDはCDとコンパクトなプレーヤーが出たことで家庭にも普及するようになります。会員の中にもプレーヤーをお持ちの方もいたのではないのでしょうか？私も持っています、東京の家で邪魔者扱いさ

れています。カラオケボックスには、レーザーディスクによるサーバーシステムが存在し、オートチェンジャーでLDが選択されてプレイヤーに運ばれるという時代がきます。カラオケボックスのバックヤードには複数のオートチェンジャーと大量のLDが収納された部屋がありました。

珍しい曲を選ぶと、オートチェンジャーが探す時間と運ぶ時間で待たされるなんていうことがあったり、収納場所を間違えていて他の曲がかかるということも初期にはあったようです。

【通信カラオケの登場～第三世代】

今は、通信カラオケが主流です。通信カラオケは回線を通じてコンテンツサーバーから曲をダウンロードして歌います。当初はMIDI規格のデジタル音源ファイルを再生するものでしたので本当の演奏ではありませんでした。シンセサイザーで再生した音源に合わせて歌うものです。現在はPCM音源が使われ、実際の演奏をデジタルサンプリングしたものを使っていますので、オリジナルに近い伴奏になっています。カラオケの黎明期は演奏家が演奏したものを録音して再生機とテープを一緒に販売していたのからすると、ほんとうに歌手と同じ音源で歌うことになるのです。また、課金方法も変わってきました。昔のスナックは100円玉を機械に入れて使っていました。ジュークボックス形式とでもいうのでしょうか。通信カラオケは曲当たりの金額と基本料金になっているようです。レーザーディスクの登場で映像も楽しめるようになりました。通信カラオケの時代になり、相当映像も進化しました。最新の通信カラオケでは、本人が出る本人映像、ドラマや映画の主題歌だとそのドラマのシーンが出たりします。本人映像は盛り上がります。第一興商の最新のコンテンツに、プレミアムデュエットというのがあり、水森かおりと氷川きよしバージョンがあり、銀恋などのデュエットを水森かおりとできます。本人映像に積極的に出ている歌手もいます。あいみょんはほとんど本人映像を提供しています。ケツメイシはその曲のミュージックビデオをカラオケにも提供しています。ある説では、本人が出ることで認知度が上がり、ファンが増えるということもあるようです。本人映像でみなさんにもぜひ見ていただきたいのですが、藤山一郎という大歌手です。彼のジャケットの襟にはロータリーバッジらしきものが見られます。藤山一郎氏は47歳くらいで東京西RCに入会、熱心なロータリアンでした。亡くなる前日にも車いすで例会に出席しています。100%出席を貫いたそうです。私が東京西RCにいた時にはすでに亡くなっていますが、娘さんが例会でピアノを弾かれていました。国家、ロータリーソング、食事中のBGMが生演奏でした。東京西RCの歌というのがあり、これは藤山さんの作です。四つのテストも藤山一郎バージョンがあります。昨年度、誕生祝の歌を日本語歌詞でおこないましたが、これも藤山一郎氏の作詞によるものです。この通信カラオケですが、音源と背景映像、歌詞の3つのデータファイルが存在します。これが合成されて演奏されますので、本人映像でない場合は、同じ映像が出てくることもあります。以前、三洋電機からいただいた仕事で、この3つのデータファイルを統合して、ひとつの映像としてDVDにするというものがありました。これは外国、著作権が無視されやすい国向けのカラオケ機器の輸出をするにあたり、データファイルが別々だと分離して再販とか流出する可能性があったからです。

【カラオケにおける印税】

さて、このカラオケですが、印税なるものが存在します。基本的には作詞家と作曲家に入るようになります。1曲あたり6円程度、作詞家と作曲家それぞれ3円ずつ程入ることになります。歌手にも1円くらい入ると言われますが、これは歌手によっても違うようです。みなさん、弾厚作、原譲二、呉田軽穂は誰かわかりますか？彼らは作曲家としてのカラオケ印税も入るようになります。カラオケ市場が拡大して、シンガーソングライターほど後から儲かる時代なのかもしれません。

【私のカラオケ歴】

昔からカラオケは好きでした。ただ、昔は曲が少なかったですね。演歌も大御所のみで少なかった記憶があります。昭和歌謡が多かったと思います。「夜霧よ今夜もありがとう」裕次郎、歌っていました。韓国に行き始めた2000年前半、韓国には日本からのレーザーディスクカラオケが中古で流れていたようで、日本人向けの店ではレーザーディスクが多かったですね。あの分厚い楽曲リストをめくり、コードをリモコンで入力する方式でした。その頃、日本の歌は少なく、30曲くらいしかなかったような気がします。松山千春の長い夜がかるうじて歌える歌でした。最近話題になりました、梨泰院には日本人向けのカラオケクラブがたくさんあります。ステージがあり、バックでボーイさんたちが踊ってくれます。ミラーボールやレーザー光線で演出されプロ気分です。梨泰院のカラオケクラブ、別の楽しみもありますが、これはまた別の機会に。宮崎に会社を作った頃、数年はみんな新しい社員でしたので、交流を深める意味もあり、二次会でカラオケスナックによく行きました。その後、今から15年前に甲状腺がんとなり、手術をしましたが、医師からの事前の説明で、甲状腺に接触している2本の神経を触るため、損傷する可能性があるとのことでした。そのうちの1本が声帯を動かすための下喉頭神経で、声が変わるかもと言われました。実際高い声が出にくくなり、1オクターブくらい、カラオケのキーがさがりました。高音の伸びが自慢で、幼少の折はスイスの隣の合唱団のような声でしたが、下で歌わざるを得ませんでした。一番困ったのはカラオケでのキーの調整です。だいたい、5下げで歌います。よく行くスナックではそのスタッフがキーの調整がとてもうまく、ありがたかったです。DAMのデンモクなのですが、ログインしてマイページが出る機能があり、最近はそれにキー情報ごと登録できるので助かります。同じデンモクがあれば全国どこでもマイページが開きますので便利です。女性の歌が好きで、最近はいみょん、YOASOBIなどを歌っています。学生時代バンドをやっていたのですが、主に女子大でのコンサートに出ていました。ボーカルは女性だったのですが、1、2曲途中で歌わされ、あまり好きでないオフコースやチューリップがリクエストされるので、練習して歌っていました。今ではそれが十八番であったりします。よくいくスナックは37年となるお店で、常連さんと顔なじみになっています。そこで友達になった方も多く、私の生活の一部のようです。みなさん、まだ感染症の心配はありますが、ストレス解消にカラオケ、行きましょう！